

令和三年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

税金の色々な使い方や使われ方を学ぶ

田原本町立田原本中学校 三年 萩原 柚愛

夏休みに入ってすぐ新型コロナワクチンを接種しました。検温・問診・接種のあと支払いがありませんでした。国民全員がタダで接種できるなんて「このお金はどこから？」と気になったので調べてみました。すると、税金のコロナ対策費が、ワクチンの確保、PCR検査、休業支援、GOTOキャンペーン、布マスクに充てられているとわかりました。かなりの税金が必要です。このコロナ禍で前年度中に予測できなかった事態に対応するために追加で組まれる予算で対応されているようです。

日本はこの予算（税金）を他国と比べてかなりコロナ対策に投入しています。でも、世論調査によると七十パーセント以上の国民が新型コロナをめぐる政府の対応を評価していないと報道されています。一兆円以上の税金が費やされているのに、なぜみんなは評価していないのかが不思議です。私のまわりの大人も口を開けば不安や不満をもらしていました。それは、ワクチン接種や治療薬開発が進まないのにGOTOキャンペーンを推進することに対して、などです。実際、金額で比較すると、追加予算七十三兆円のうちワクチン関連一・六兆円に対してGOTOが三兆円でした。医療を重視してほしい人と経済を重視したい人との対立があるのかもしれませんが。ニュースでは、地方のコロナ対策予算の使い道への不満が流れていました。イカの前 Monument を作ったり、スキー場のライトアップなど、直接コロナ抑制に使われておらず、観光客を集めるための経済目的だと思える使い方もありました。田原本町はどうなっているのか地方創生図鑑で調べてみました。医療関連が四十七パーセント、経済振興五十三パーセントでした。田原本ではICTを用いたスポーツ療法教室や健幸ポイント外出促進事業などコロナ禍での体力向上に、予算の約半分に使われていました。となりの三宅町では、保育園での紙おむつの提供から廃棄までをこの予算でカバーしていることがわかりました。これは新型コロナの感染予防対策の一つです。

今までは、税金＝学校・病院・ごみ処理のイメージが強かったけれど、今回ワクチン接種をきっかけに税金の他の使われ方を知りました。税金を納める義務もあるけれど税金を使う権利もあるからこそ、税について難しい、わからない、任せておけばいいこととして片付けるのではなく、税金の使い方・使われ方をちゃんと知り、学ぶべきだと思いました。